大学院 GP（大学院教育改革支援プログラム）報告書

正課外活動の充実による大学院教育の実質化

活動報告と今後の予定

2008 年度上半期（2008 年４月１日～2008 年８月１９日）

" Informal Education"

Graduate School of Human Development & Environment Kobe University

目　次

推進プラットホーム（事務局）　……………………………………………………1～2

実践活動支援グループ　…………………………………………………………………3～4

委員会活動支援グループ　………………………………………………………………5～6

学術活動支援グループ　…………………………………………………………………7～8

広報プラットホーム………………………………………………………………………………9

評価尺度開発グループ　………………………………………………………………10～11

「推進プラットホーム（事務局）」

Ⅰ．主な会議：実務者会議と院生会議

実務者会議の日程と内容

4 月 8 日　各グループ担当者より、進捗状況に関する報告　新入生・進学生向けの大学院 GP ガイダンスの報告　大学院 GP イニシャルプログラムの第一弾「オリエンテーション合宿(以下、合宿とする)」の準備・当日の運営に関する検討　広報システムと来期予算内容の問題点に関する検討

4 月 22 日　合宿の内容・準備に関する確認　昨年度の「予算・決算」と「実績および効果」の報告書（文部科学省提出分）に関する検討　インフォーマル活動手帳に関する検討

5 月 9 日　合宿の内容・準備に関する最終確認　2008 年度の事業枠に関する報告

5 月 23 日　合宿に関する報告　各グループ担当者より、進捗状況に関する報告　大学院 GP のスタッフ募集に関する検討

6月 13 日　大学院 GP イニシャルプログラムの第二弾「活動スタートプログラム」の内容に関する検討　院生スペースと広報ルームの利用法に関する検討

7 月 4 日　「活動スタートプログラム」の内容・準備に関する確認

院生会議の日程と内容

4 月 17 日　合宿に向けての打ち合わせ（合宿内の各セッション担当の分担も含む）①

4 月 23 日　合宿に向けての打ち合わせ②

5 月 7 日　合宿に向けての打ち合わせ③

5 月 9 日　合宿に向けての打ち合わせ④

5 月 12 日　合宿に向けての最終打ち合わせ⑤

6 月 6 日　合宿の振り返り

6 月 17 日　今後の課題と「活動スタートプログラム」に関する打ち合わせ①

6 月 26 日　「活動スタートプログラム」に関する打ち合わせ②

7 月 11 日　「活動スタートプログラム」に関する最終打ち合わせ③

Ⅱ．メインプログラムの実施状況

5 月 14 日・15 日　イニシャルプログラム第一弾「オリエンテーション合宿」

7 月 19 日　イニシャルプログラム第二弾「活動スタートプログラム」

【今後の予定】

2 月　リフレクティヴプログラム

Ⅲ．中核事業（メインプログラム他）への院生の参加状況

※（　　名）内の数字は、企画運営に中心的に参画した院生数

メインプログラムについて

2008 年 4 月 4 日　新入生・進学生向けガイダンスでの説明（6 名）

2008 年 4 月 11 日　オリエンテーション合宿の現地下見（2 名）

2008 年 4 月 23 日～30 日　オリエンテーション合宿事前説明会での説明および説明会出席者へのインフォーマル活動手帳の配布（17 名）

「教員企画」について

6月7日～14日　オーストラリア・エディスコワン大学での学術交流に関する打ち合わせ（2名　担当教員：川畑徹朗）

7月26日　あかねが丘学園交流事業（8名　担当教員：松岡広路）

【今後の予定】

8月　台北市円山公園周辺の大安公園での質問紙調査および利用者のマッピング　担当教員：山口泰雄

9月　アートカフェ　担当教員：田中成典

9月　大学院生がコーディネートする客員研究員制度　担当教員：田中成典

9月　近畿数学教育学会研究発表会　担当教員：高橋正

10月　クロスロードカフェ　担当教員：田中成典

10月　映画上映会　担当教員：田中成典

10月　学士課程教育プログラム改革への大学院生の寄与　担当教員：蛯名邦禎

10月　分野横断型コア・コンピテンス養成システムの創成　担当教員：蛯名邦禎

10月　マリンラボ（「深江丸」での宿泊研修 ）　担当教員：蛯名邦禎

11月　都市空間おける高齢者の生活空間行動に関する日中比較研究　担当教員：山崎健

11月　第3回 国際市民性教育推進ネットワーク・セミナーの開催　担当教員：今谷順重

11月　神戸大学が所有する文化財の保存と活用に関するプロジェクト 担当教員：梅宮弘光

「院生企画」について

6月29日　元気アップ・エクササイズ教室 転倒予防教室　（5名 うち責任院生：根來信也）

【今後の予定】

9月　元気アップ・エクササイズ教室 転倒予防教師室　責任院生：根來信也

10月　科学的リテラシー育成の授業開発支援　責任院生：梅本裕人

Ⅳ．活動証明について

5月のオリエンテーション合宿およびイニシャルプログラム期間中に「インフォーマル活動手帳」を配布し、使用方法についての周知をおこなった。この手帳の記載内容に基づいて活動証明を発行する予定である。正式な証明手続きは来年度中に確定する。

「実践活動支援グループ」

Ⅰ．会議・事業の準備、運営等

実践活動支援担当者会議（主に7月19日実施の活動スタートプログラムの企画を検討するための会議）を2008年6月3日・6月24日・6月26日・7月3日・7月18日に開催した。毎回の出席者は4～5名であった。このうち院生は、1名～3名の参加であった。

Ⅱ．学外・学内の組織との連携・協力

学外について（2008年4月～）

NPO中間支援組織、NPO団体、ボランティアに関する組織・市民団体、社会福祉協議会や公立保育所等に対し、本大学院GPの趣旨の説明をおこない、院生の実践活動の場としての連携・協力を依頼した。連携することとなった団体・組織名は、ひょうごボランタリープラザ（兵庫県社会福祉協議会）・財団法人ひょうご環境創造協会・NPO法人明石NPOセンター・NPO法人しゃらく・NPO法人つどい場さくらちゃん・NPO法人アマモ種子バンク・NPO法人ひょうご森の倶楽部・NPO法人SO神戸・NPO法人たかとりコミュニティセンター・NPO法人ECO（エコ）レンジャー・NPO法人神戸アスリートタウンクラブ・実践自然保護団体 日本熊森協会・財団法人日本ユニセフ協会兵庫県支部・神戸市灘区公立保育所・神戸市灘区登録子育てサークル・明石市立高齢者大学校あかねが丘学園であった。これらの組織・団体のうち、中間支援組織である「ひょうごボランタリープラザ（兵庫県社会福祉協議会）」「財団法人ひょうご環境創造協会」からは後援名義を得た。

5月14日・15日に実施した「イニシャルプログラム（オリエンテーション合宿）」おいて、上記の団体・組織が各自の実践活動を紹介し、院生とも交流した。また、7月19日に実施した「イニシャルプログラム（活動スタートプログラム）」で、院生が上記の団体・組織のうち6か所を訪問した。

学内について（2008年4月～）

研究科内あるいは大学内で組織されている団体･グループに対し､本大学院GPの趣旨の説明をおこない、院生の実践活動の場としての連携・協力を依頼した。連携することとなった団体・グループ名は、大学院人間発達環境学研究科サテライト施設「のびやかスペース あーち」において開催している4グループ（「0歳児のパパママセミナー」「1～2歳児のパパママ交流会&中学生の赤ちゃんふれあい体験学習」「居場所づくり」「ぽっとらっく」）、大学内で活動している2グループ（「みのりプロジェクト」「カフェ アゴラ」）、大学の内外で活動するグループ、「あかねが丘学園交流事業」「サイエンスショップ」「サイエンスサポーター」「コミュニティアート」「環境フェスタ」「ESDボランティア塾　ぼらばん」であった。

Ⅲ．実際の院生の活動（今後の予定も含む）

⑴「あかねが丘学園交流事業」：明石市立高齢者大学校あかねが丘学園において、あかねが丘学園に通学するシニア世代と現役の大学生・院生が、さまざまな活動を通して世代間交流をはかる事業。院生がスタッフとして8名が参画し、「事前の打ち合わせ交流会（2回）」と、大学生40名強が参加する「1日交流会」の企画・運営・評価をおこなった。参加院生は、24名（述べ数）であった（2008年7月中に3回実施)。

⑵「0歳児のパパママセミナー」「1～2歳児のパパママ交流会&中学生の赤ちゃんふれあい体験学習」：毎月第2土曜日に開催される子育て支援関連事業に院生が31名（延べ数）参加した（2008年5月・6月・7月の3回の実績)。

(3)「居場所づくり」: 毎週金曜日に開催される障害者・児のためのプログラムに院生が 16 名（延べ数）参加した（2008 年 4 月・5 月・6 月・7 月の 16 回の実績)。

(4)「ぽっとらっく」: 毎月第３土曜日に開催される自閉性障害の子どもを持つ保護者へのセミナーおよび交流会、自閉性障害を持つ就学前の子どもの遊びの支援（専門職や一般人・学生ボランティアによる託児）に院生が１名参加した（2008 年 6 月に１回)。

(5)「みのりプロジェクト」: 主に知的障害のある青年らが、就労に向けた取り組みをおこなう、自らの生活リズムを整える、また友人・仲間づくりなどの目的で、大学内に拠点を置き活動する。活動内容は、教員らの依頼でおこなう印刷作業・農作業などがある。数名の院生が週 1〜2 回の割合で、彼らを支援しており、今までに 20 名（述べ数）が参加した（2008 年 4 月〜7 月の間)。

(6)「カフェ アゴラ」: 身体障害がある方が大学内にカフェをオープンし、マスターとして活動している。カフェには主に知的障害のある青年らが、カフェでの作業の実習をしている。院生は１名が週１回程度、その作業を支援している。今までに 15 名（述べ数）が参加した（2008 年 4 月〜7 月の間)。

(7)2008 年 7 月 5 日に開催された第 7 回地球研フォーラム「もうひとつの地球環境問題 会うことのない人たちとともに」には、院生の参加はなかった。

(8)神戸市灘区子育てサークル（2 か所）の活動に、研究生（2009 年度大学院へ入学志望）が参加した（2008 年 6 月および 7 月の 2 回)。この研究生が院生に呼びかけて、2009 年 2 月開催予定の子育てサークルのプログラムを企画・運営する予定である。

(9)「ESD ボランティア塾 ぼらばん」の主催する「邑久光明園ワークキャンプ（ハンセン病回復者のコミュニティでのボランティア活動)」に院生が 3 名参加。企画・運営・評価の各段階において中心的な役割を果たした（2008 年 8 月 3 日〜8 日)。

(10)2008 年 9 月からおこなわれる「高校と共に授業を作る〜県立明石清水高校『科学と人間』コース」について、8 月から院生スタッフ募集を開始した。現在、院生が 3 名参加申し込みしている。

【今後の予定】

2008 年 9 月実施予定の「ベビーキャラバン（灘区社会福祉協議会主催)」に、院生 2 名が参加する予定である。また、上記活動のうち、「0 歳児のパパママセミナー」「1〜2 歳児のパパママ交流会&中学生の赤ちゃんふれあい体験学習」「居場所づくり」「みのりプロジェクト」「カフェ アゴラ」「ESD ボランティア塾 ぼらばん」等には引き続き、院生がかかわる予定である。

「委員会活動支援グループ」

Ⅰ．会議・事業の準備、運営等

メンバーの異動があったために、委員会活動支援グループとしての引き継ぎ会議を 4 月 18 日に実施、以降は委員会活動支援グループとしての議論はメーリングリスト上で行うとともに、各事業の実施に際しては、その事業の担当委員会との合同会議を事業毎におこなっている。

⑴新入生ガイダンス支援

昨年度 12 月にメーリングリストを開設し準備開始。2 月 5 日・3 月 28 日・4 月 4 日とミーティングを重ねつつ、メーリングリストでの意見交換を通じて、当日使用するスライドの作成などの準備を進めた。中心となって準備に関わり、ガイダンス当日に登壇した院生は 2 名であった。

⑵学振特別研究員への応募のススメ（説明会）

メーリングリストでの意見交換により準備を進めた。当日の登壇・説明や応募書類作成に関する情報提供は、実際に DC 採用された院生 2 名の協力を得た。

⑶オリエンテーション合宿（グループ共同事業）

4 月 15 日・4 月 24 日・5 月 1 日とミーティングを重ねつつ、メーリングリストでの意見交換を通じて、当日上映する委員会活動支援グループのプロモーションビデオ作成などの準備を進めた。

⑷オープンキャンパス支援

オリエンテーション合宿（5 月 14 日・15 日）の場やポスターにより院生スタッフの募集を開始した。6 月下旬にメーリングリストを開設した（教職員 8 名、院生 3 名）。7 月 11 日・16 日・24 日・31 日とミーティングを重ねつつ、メーリングリストでの意見交換を通じて当日参加者に配布する資料の作成などの準備を進めた。また、院生スタッフに加えて、当日協力してくれる院生・学部生の募集をおこない、組織作りをおこなった。

⑸ホームカミングデイ支援

オリエンテーション合宿（5 月 14 日・15 日）の場やポスターにより院生スタッフの募集を開始した。6 月下旬にメーリングリストを開設した（教職員 8 名、院生 2 名）。7 月 24 日・30 日とミーティングを重ねつつ、メーリングリストでの意見交換を通じて案内状に同封するチラシ原稿の作成などの準備をおこなっている。

Ⅱ．部局内の各種委員会等との連携・協力

⑴新入生ガイダンス支援

教務委員会、教務係、学生委員会、学生係に対する支援

教務委員会委員長および学生委員会委員長が、ともに大学院 GP の実務担当者であったために、連携が円滑におこなうことができた。

⑵学振特別研究員への応募のススメ（説明会）

キャリアサポートセンターに対する支援

⑶オープンキャンパス支援

広報専門委員会および学生係に対する支援

⑷ホームカミングデイ支援

ホームカミングデイ実行委員会および総務係に対する支援

Ⅲ．実際の院生の活動（今後の予定も含む）

⑴新入生ガイダンス支援（4 月 9 日実施）：入学式後の学部新入生向けのガイダンスにおいて、先輩学生の立場から新入生へむけてのガイダンスをおこなった。　当該の院生は、ガイダンス終了後も新入生からの質問にも応対した。

⑵説明会「学振特別研究員への応募のススメ」（5 月 2 日実施）：学振特別研究員の募集期間にあたり、キャリアサポート支援事業の一環として、過去に特別研究員として採択された経験者や過去の審査員経験者を講師として招いて、学振特別研究員への応募を奨励する説明会を開催した。院生 20 名を含む 26 名の参加者を得た。

⑶神戸大学図書館情報検索教室（6 月 19 日実施）：教育研究支援事業の一環として、院生の運営により、本学附属図書館情報リテラシー係の職員を講師に招いて、論文検索など電子情報検索について実際に体験する教室を開設した。運営側の院生は 3 名であり、院生 8 名を含む 20 名の参加者があった。

⑷オープンキャンパス支援（8 月 8 日実施）：各学科コース単位で実施される説明会の場で先輩学生の立場から高校生へむけてのメッセージを伝えたり、「よろず相談所」を開設したりして、説明会の場では聞きづらい質問などにも細やかに応対した。運営を中心的に担った院生は 3 名、協力院生は 9 名であった。

【今後の予定】

ホームカミングデイ支援（9 月 27 日実施予定）：各研究室コース単位の同窓会を同日夕方に企画し、当日の参加の促進を図る予定である。

「学術活動支援グループ」

Ⅰ．前年度の補足

昨年度の報告書作成時点では触れることができなかったが、今後の発展的展開につながる重要な活動を 2 点追記する。

⑴2008 年 3 月中旬：2007 年 12 月のロンドン大学教育大学院との学術交流研究会の成果を取りまとめ、英文プロシーディングスを作成した。編集は院生中心におこなわれ、参加院生の論考も掲載された。

⑵2008 年 3 月 26 日～30 日：協定校の西オーストラリア大学（パース）のスポーツ科学と心理学分野を訪問した。これまでの派遣事業とは異なり、実際に先方の定例研究セミナーで英語発表をおこなったことは院生たちにとって大きな自信になったようである。西オーストラリア大学は神戸大学との交流に力を入れようとしており、今後のさらなる学術交流が期待される。

Ⅱ．海外派遣事業

6 月には協定校のエディス・コワン大学（オーストラリア、パース）への派遣支援をおこなった。2007 年度の海外派遣事業では院生に報告シートのみを提出してもらったが、3 月末の西オーストラリア大学（パース）訪問以降は、これまでの報告シートを簡単な報告書の体裁に改めた。エディス・コワン大学訪問については、参加院生による報告書がまもなく完成する予定である。なお、これらの報告書は PDF 形式で大学院 GP のホームページ上からダウンロード可能である。また、これまではホームページ上に学内イベントのみが紹介されていたのを改め、前年度にさかのぼってこれまでの海外派遣事業の紹介と院生の声を掲載した[http://gph.h.kobe-u.ac.jp/264]。

Ⅲ．オリエンテーション合宿

5 月 14 日・15 日に実施した「イニシャルプログラム（オリエンテーション合宿）」では、昨年度の学術活動の内容を院生が中心になって紹介し、その後、新入生（主に修士課程 1 年生）に学術関係の企画を実際に立ててもらうワークショップをおこなった。このうち投票で上位になった 3 つの企画に関しては、実現する方向で企画スタッフの募集をはじめたところである[http://gph.h.kobe-u.ac.jp/293]。

Ⅳ．研究科内への活動の周知（2008 年 4 月～）

研究科内で組織されている団体・グループに対し、大学院 GP の趣旨説明をおこない、教員が主催する研究会などと連携・協力を依頼した。その結果、9 月初めに開催予定の「近畿数学教育学会研究発表会」や「日韓インクルージョン研究交流会」を学術活動支援グループの研究会支援事業として支援することになった。

Ⅴ．サイエンスショップ関連事業

上記のⅣ．と関連して、神戸大学サイエンスショップが主催・共催する以下の事業に、学術活動支援グループが支援し、院生の参加を呼びかけた。

⑴2008 年 10 月 3 日に開催予定のマリンラボ（深江丸宿泊研修）について、6 月から院生スタッフ募集を開始した。現在、院生が 2 名参加している。

⑵2008 年 7 月 21 日におこなわれた鶴甲理科実験教室（理科ふれあい広場）に、院生が 4 名参加し、そのうち 2 名は講師として参加、残りの 2 名はスタッフとして参加した。

Ⅵ. 学術 Weeks

昨年 12 月のロンドン大学教育大学院との学術交流研究会の成功を受けて、今年度からは学術活動支援の目玉として，11 月に学術 Weeks の開催を予定している。今年は 11 月の 2 週目と 4 週目に以下の招聘がすでに決定している。

11 月 11 日～13 日　ロンドン大学教育大学院（昨年度につづく第 2 回目の当該大学院との学術交流研究会）
　Ms Mary Sawtell, Ms Helen Austerberry（子育て支援）

11 月 11 日～13 日　北京大学
　柴彦威教授（都市地理学）

11 月 11 日～13 日　西オーストラリア大学
　Dr David Morrison, Professor Michael Anderson　（心理学）

11 月 11 日～13 日　オーフス大学
　Professor Hans Uffe Sperling-Petersen　（分子生物学）

11 月 25 日　　　オーストラリア・カトリック大学
　Professor Lyn Carter　（教育科学）

11 月 25 日～26 日　西オーストラリア大学
　Dr Daniel Green　（スポーツ科学）

11 月 27 日～29 日　ワシントン大学
　Professor Walter Parker, Ms Carol Coe　（シティズンシップ教育）

現在、各イベントの院生スタッフを募集中であるが、昨年度現地に赴いた大学に関しては（ワシントン大学、西オーストラリア大学）、参加した院生が中心になり、すでに具体的な企画立案が進められつつある。また、学術 Weeks 全体を統括する院生の運営組織を発足させ、最終的に学術 Weeks 全体の発表原稿や報告を集めたプロシーディングスを作成する予定である。

こうして研究科内で散見している学術交流が同時におこなわれる状況を作りだし、院生たちが自由に参加できる環境を整える。そして、国際的な研究会を開催する際に必要なことを学び、外国語で発表をおこない、海外のさまざまな分野の研究者と交流する機会を提供する。将来的には運営主体を移して大学院 GP 終了後も、この学術 Weeks を継続していければと考えている。

Ⅶ. ESD シンポ in Kobe

2009 年 3 月 8 日・9 日に、2006 年度ノーベル平和賞受賞者でバングラデシュのグラミン銀行総裁であるムハマド・ユヌス氏を神戸大学へ招聘することが決定している。このシンポジウムは、神戸大学および賀川豊彦献身 100 年事業神戸プロジェクト実行委員会が主催し、本大学院 GP も協力する予定である。学術活動支援グループは院生が積極的にこの企画運営に参加し、この類まれな機会を生かせるよう支援する。また、その準備段階として、上述の学術 Weeks に合わせておこなわれる予定のバングラデシュに関する学習会やミニ・シンポジウムへの支援もおこなう。

「広報プラットホーム」

Ⅰ．広報プラットホームの役割と工夫

広報プラットホームの主な役割は､学内外に向けて､本大学院 GP のイベントや活動の広報活動すること、及び、院生に向けてイベントのスタッフ募集に関する情報を流すことである。広報の媒体は、ウェブや電子メールなどの電子媒体、ポスターやちらしなどの紙媒体の他、今年度より学内の電子掲示板にも情報を流している。

2008 年 4 月以降に開催されたイベント、あるいは、開催予定のイベントに対して、企画検討の段階からミーティングに参加し、実施グループのメンバーと密接な情報交換を行い、早い段階からウェブ掲載をするなど、積極的に広報活動を行っている。

学内に向けてより効果的に情報を流すため、学生ホール（D-Room)、図書館、学生事務室前の 3 ヶ所に電子掲示板を設置した。電子掲示板システムは、専用の RSS を編集することにより、発達科学部・人間発達環境学研究科ウェブサイトや本大学院 GP のサイト上に掲載されたページをパソコン上のブラウザで自動的に読み、スクロールさせて電子掲示板に表示するというものである。システムの構成については、広報プラットホームと情報システムを専門とする教員や学生の間で議論を積み重ね、できるだけ手間がかからず、コストのかからない方法を検討した。ブラウザ上でページを自動スクロールするプラグインは、教員の指導の下で学生によっておこなわれた。

Ⅱ．ウェブ上に掲載した情報（内容)

ウェブ上に掲載する内容は、主に、イベントの開催に関する詳細情報、ポスターなどの PDF ファイル、院生スタッフの募集に関する情報、院生スタッフによる事後報告・感想などである。2008 年 4 月以降に大学院 GP ウェブサイト[http://gph.h.kobe-u.ac.jp/] 上に掲載したウェブ情報は、次の通りである。

(1)オリエンテーション合宿説明会（4 月 23 日・24 日・25 日・28 日・30 日）
(2)説明会「学振特別研究員への応募のススメ」(委員会活動支援グループ) (5 月 2 日）
(3)みんなで行こう！ オリエンテーション合宿（5 月 14 日・15 日）
(4)神戸大学図書館情報検索教室（委員会活動支援グループ）(6 月 19 日）
(5)活動スタートプログラム「夏の活動デザインワーク」（7 月 19 日）
(6)あかねが丘学園 交流プログラム「そうだ、あかねが丘へ行こう」(実践活動支援グループ) (7 月 26 日）
(7)第 6 回研究会(尺度開発ワーキンググループ）(7 月 30 日）
(8)日韓インクルージョン研究交流会(実践活動支援グループ＋学術活動支援グループ）(9 月 1 日・2 日）
(9)近畿数学教育学会研究発表会(学術活動支援グループ）(9 月 6 日）
(10)マリンラボ(「深江丸」での宿泊研修) (学術活動支援グループ）(10 月 3 日～5 日）
(11)神戸大学大学院人間発達環境学研究科・ロンドン大学教育大学院 第 2 回学術交流研究会「イギリスの子育て支援に学ぶ」(実践活動支援グループ＋学術活動支援グループ）(11 月 11 日～13 日）

「評価尺度開発グループ」

Ⅰ．データの収集

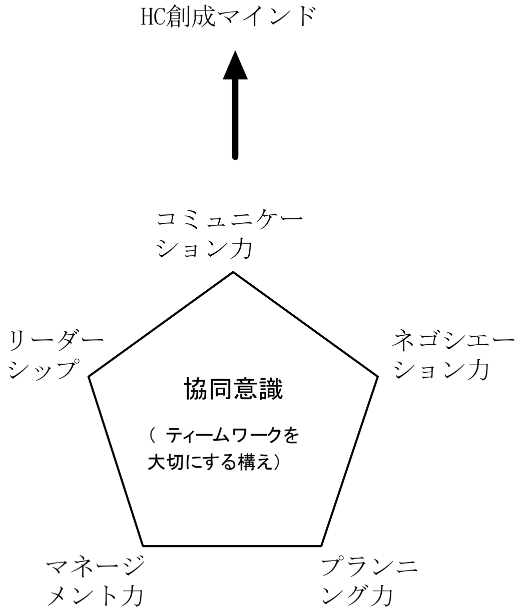
2008 年 3 月 28 日の第 5 回研究会で作成した「評価尺度トライアル版」を用いて、2008 年 5 月 14 日にオリエンテーション合宿に参加した院生（92 名）や参加していない院生（55 名）計 149 名を対象にデータ収集をおこなった。

Ⅱ．収集した評価尺度の構造と各項目数

「評価尺度トライアル版」を用いて、各尺度の信頼性と妥当性を検討するため、兵庫県下の大学生 282 名のデータを収集した。

右に開発した「評価尺度トライアル版」の構造を示す。育成すべきヒューマンコミュニティ創成マインドは、大学院 GP のホームページで次のように謳われている。

「神戸大学大学院人間発達環境学研究科では、正課教育によって培われる高度な専門的力量とともに、市民社会で活躍できる資質や能力の育成にも力を入れています。具体的には、「ティームワークを大切にする構え」や「コミュニケーション能力」「ネゴシエーション（交渉）能力」「プランニング（企画立案）能力」「マネジメント能力」「リーダーシップ」などです。これらを総じて「ヒューマンコミュニティ創成マインド」と呼びます。」



評価尺度の構造

このような定義から検討を重ねた結果、図に示すように、ティームワークを大切にする構えをわれわれは「協同意識」として中核に据え、その周りを「コミュニケーション力」、「ネゴシエーション力」、「プランニング力」、「マネジメント力」、「リーダーシップ」の 5 つのスキルが取り囲んでいる構造とした。

協同意識は、長濱・安永・関田・甲原（2008）の協同作業認識尺度を用い、第 1 因子：協同効用（9 項目）、第 2 因子：個人志向（6 項目）、第 3 因子：互恵懸念（3 項目）を測定することとした。さらに 5 項目からなる信頼受容行為尺度を織り交ぜ、他のメンバーの行為を認め、肯定的に評価し、信頼をどう形成しているかを測定することとした。

また、ヒューマンコミュニティ創成マインドに向かう動機づけの側面を重視し、それを目標達成に関する肯定的な期待（ホープ）として捉えることにした。このホープは Stotland（1996）が提唱したホープ理論にもとづくものである。ホープ理論によれば、ホープは肯定的な目標志向的計画（pathways thought:計画）と肯定的な目標志向的意志（agency thoughts:意志）の相互から派生した感覚にもとづく認知的傾向である。この認知的傾向を日本版ホープ尺度（加藤・C.R. Snyder,2005）を用いて測定することにした。計画因子は目標達成のための道筋を作る能力を 4 項目で測る。意志因子は計画を歩むための動力を意味し、同じく 4 項目で測定する。目標追求のための行動（ホープ）＝計画＋意志によって決定される。

5 つのスキルについてはそれぞれ以下のような下位項目を準備した。各下位項目は項目分析を経た後に絞り込む予定である。

「コミュニケーション力」6 項目　「ネゴシエーション力」8 項目　「プランニング力」10 項目

「マネジメント力」6項目　「リーダーシップ」11項目

また、これらの評価尺度は【実践活動】、【学術活動】、【委員会活動】の3つの活動フィールドで適用できるように評価項目の表現を工夫した。

Ⅲ．研究会の開催

<u>尺度開発ワーキンググループ第6回研究会</u>

日時：2008年7月30日 10:00～12:00、13:00～15:00

会場：神戸大学発達科学部 中会議室C(A棟2階)及びA536号室

内容：「ヒューマンコミュニティ創成マインド」評価尺度開発のための項目分析と評価の活用について

研究アドバイザー：安永　悟　氏（久留米大学文学部 教授）

長濱 文与　氏（久留米大学比較文化研究所 研究員）

討議内容：

因子分析の結果、5つのスキルのうち「プランニング」、「マネジメント」、「リーダーシップ」の3因子については抽出できたが、「コミュニケーション」と「ネゴシエーション」については明確には抽出できなかった。そこで、次回研究会（9月）では「ネゴシエーション」の項目を見直してデータを収集し、評価尺度下位項目の見直しをおこなうこととした。

協同意識尺度、信頼受容行為尺度、ホープ尺度についてはヒューマンコミュニティ創成マインドと有意な相関が見いだされた。また、結果の表示の仕方については、【ティームワークを大切にする構え】と【5つのスキル】に大別し、前者は「協同効用」、「個人志向」、「不公平感」、「信頼受容行為」および「ホープ」の5因子とし、後者は「コミュニケーション力」、「ネゴシエーション力」、「プランニング力」、「マネジメント力」、「リーダーシップ」の5スキルをレーダーチャートで表示することとした。評定はいずれも6件法でおこなう予定である。

なお、評価尺度の最終確定は本年度末までにおこない、来年の活動手帳に掲載する予定である。